

不登校をサポートする学習の施設について調べ、
自分たちが感じたことを発表する。

岡山県立鳥城高等学校
不登校をサポートする学習の施設について

「不登校」と教育について知り、考えてみた

岡山県立鳥城高等学校

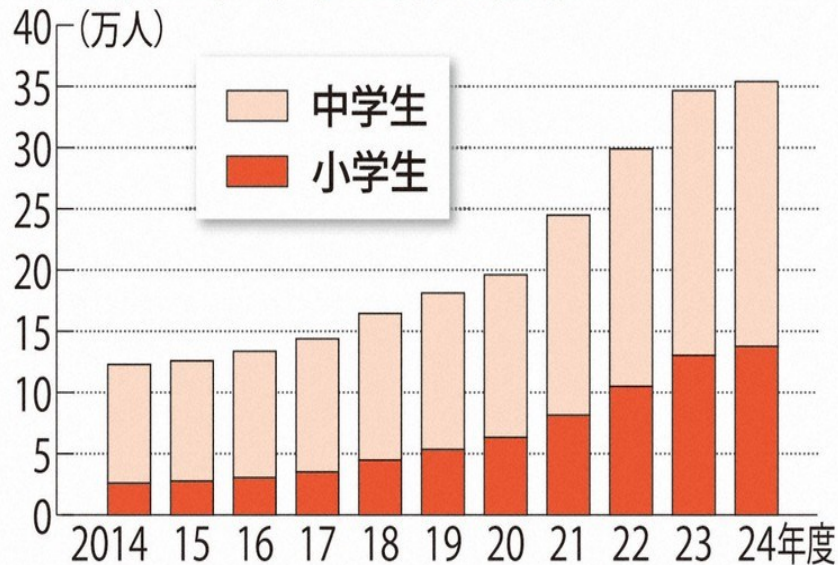
中尾 橋本 和氣 大森 大槻

4 質の高い教育を
みんなに



【研究背景】

不登校の小中学生数の推移



※文部科学省の「問題行動・不登校調査」による

不登校児童・生徒の数は
年々増加している

小中学校における
不登校者数

2014年⇒約12万人

2024年⇒約35万人

約3倍の増加

現在の日本の就学状況

小中学校に在籍したことがない、
または中途除籍者の人口→約**9万4000人**

中学校中途除籍者の義務教育未修了者
→約**80万人**

これらをあわせた義務教育段階の未修了者
→約**90万人**

2020年国税調査により

義務教育未修了者の中には、、、

不登校などの影響で教育を
受けないまま卒業した「**形式卒業者**」なども含ま
れている



たくさんの人が夜間中学に通っていることを聞き、
実際に行き、現状や実態を知らなくてはいけない
と思った。

【 研究目的 】

不登校を支援している施設の実態、現状を知る



実際に訪問して、実態を知ったうえで
自分達を感じたことを発表する

調査

岡山自主夜間中学校

・ 2017年4月に開校され、幅広い年代の人が通う民間で運営されている夜間中学 今年で設立10年目



(住所)

岡山市北区表町1丁目9-53

いろはみせビル 3F

(オランダ通りに面しています)

TEL: 090-2862-4400

(城之内代表の携帯電話)

- :生徒数 442名 10代～80代
- :教師数 332名 ボランティアスタッフ
- :実施回数 週3回（月・水・土）
- :実施時間 17：30～21：00
- :教科書 寄付されたものを使用
- :参加費 無料



（助成金と寄付やボランティアなどの
善意で運営されています）

・ 特徴

スタッフと生徒がマンツーマンで個々のレベルに合った学習ができる。また時間割が指定されていないので自分の苦手分野などを重点的に学習できる

不登校の人への居場所になる所、スタッフと生徒が互いに学び合い、教え合う所

課題（問題点）

- 助成金とボランティアで運営されているので経営的な問題点がある。
- ボランティアの数も減ってきている
- 中学校の卒業資格が取れない

調査

岡山市立後楽館中学校 夜間学級

- ・ 2025年4月に新設され、現在で設立約1年になる
公立の夜間中学校
- ・ 豊かな人間性と自立心を持った生徒の育成を目標
に掲げている
- ・ 所在地：岡山市天神町9番24号

生徒数 合計13人 (1年生 13人, 2・3年生 0人)

→まだ開校して1年目なので生徒数は少ないが今後
増えると予想される 15歳以上が対象

教員数 13名→教員免許を持った中学教員

授業 月曜日から金曜日の週5日 1単位40分

費用 授業料は無償 教科書は給与 校納金として
年間6000円 ノートや鉛筆は自己負担

特徴

- ・一人一人に寄り添い、手厚いサポートを行っている
- 十分に学べなかった人も安心して学べる
- ・若い世代から団塊世代まで幅広く在籍してる。
- 年代、教育課程の違いを超えて互いの良さを認め合える
- ・修業すれば**中学校の卒業資格**が取れる

課題

- ・ 現在不登校で学びに困っている小中学生が入学することが出来ない
- ・ 時間割が指定されているのでその人の苦手な分野を重点的に学習したり、好きなことを好きなときに出来ない
- ・ 在籍期間が限られている

調べてみて分かったこと

岡山自主夜間中学



- ・ ボランティアや寄付、助成金など様々な支援によって運営されている。
- ・ 一人一人の苦手な分野を重点的にできるので安心して学習ができる。
- ・ 教員免許が不要なので誰でもボランティアとして参加できる

岡山後楽館中学校 夜間学級



- ・岡山市によって運営されている
- ・教員が個別に手厚いサポートを行うので出来なかったことができるようになる
- ・幅広い年代の人がクラスにいるので世代を超えて交流できる
- ・年齢差関係なく互いに教え合い、支え合っている。

調査を通して感じたこと

- ・ 双方に良さがあり、どちらも必要性がある
- ・ 一人一人に寄り添って学習をサポートしているところやボランティア、教員、寄付など様々な支援によって作られ支えられていることはどちらも共通している。
- ・ しかし経営的な問題などこれからの課題も残っている。

調査のまとめ

- ・岡山自主夜間中学や後楽館夜間学級は一人一人に寄り添い様々な理由から十分に学習が出来なかった人、出来ていない人にとって安心して学べる場所である。
- ・まず知ることが今回の探究活動において最も重要なことである。

今後の調査

「**学びの多様化学校**」 ・ ・ ・ 授業時間、教育課程
を柔軟に設計できる。現在公立・私立合わせて全
国的に存在する中学校



新たな不登校の支援学校として注目が高まっている



今後調査を予定

ご清聴ありがとうございました！！

